



進路部長かく語りき

松園進路だより

第3号 平成30年7月10日発行

進路行事 6・7月：6/11 調査書記載事項確認（3年次）

6/25 教育実習生講話（3年次） 7/2 求人票公開 7/20 指定校一覧（第一次） 掲示
7/10～ 面談週間 7/21～ 夏期講習

お見合い必勝法

今回はお見合いの話である。誰にでも運命的な出会いが訪れるわけではない。ドラマや漫画のようにはいかないのである。従って、世に婚活をする人々が多くいることになる。

伴侶となる人を見つけるのに、イメージや見てくれだけで決めたり、まして、こちらへんではないかなどという妥協や、まあまあいい人らしいからなどという理由で決めては長続きするわけではない。相手を良く知り、自分に必要であり、伴侶となることで何が得られ、何が生まれるのか、冷静に判断することが必要であろう。

で、ここでいうお見合いは上級学校とお見合いである。専門学校であれば、時間にして2年、金にして300万程度、大学なら時間にして4年、金にして文系でも、交通費等も考慮して500万からの金額が必要である。これだけの時間と金を掛けるものなのだから、慎重の上にも慎重を期したい。

大学の中退者数は年間約8万人いる。これは大学生全体の2、65%である。休学者は2、3%いる。ざっと考えて松園生のうちの6、7人が中退し、5、6人が休学する計算になる。そうならないためにも、相手を知ることがもちろん自分自身を冷静に分析することが必須なのである。鏡に映した自分を見つめ、客観的に判断する

ことはなかなか難しい。

住所や電話番号などの個人情報が入力が必須であるが、マイナビの「進路のミカタ」というサイトに「適学・適職診断」というものがある。もし情報を入れても構わないなら、やってみることをお勧めする。162項目の質問に答え、「興味・関心」に加え「行動傾向性」も探ることで、「学問・職業・業界」の詳細な適性を診断してくれる。自分でも気づかない一面を発見してくれるかもしれない。

また、相手を知るサイトとしてはテレメールの「夢ナビ」というサイトもある。様々な大学の先生方が自分の専門の学問について、短いものは3分で、説明してくれる。興味を持ったら本編の30分の動画を見てみるとその分野の理解が深まる。こちらは関心のあるキーワードを入力すると、お薦めの動画を教えてくれる。本日パンフを配布した。資料請求に料金のかかるものもあるから注意してほしい。7月14日にはライブでのイベントも行われる。（各クラスにポスターを掲示してもらっているはずだ。）

さて、相手を知り、自分との相性や将来性も問題なしとなったら、今度はプロフィールである。

次回、プロフィール必勝法に続く…。



下人が面炮を気にする理由

一年生はまだやっていないかもしれないが、芥川龍之介の「羅生門」の主人公である下人の類には大きなニキビがある。「赤く膿を持った大きな面炮（にきび）である。」下人はそのにきびにたびたび触れる。作品の中ではこの行為はあることの象徴として描かれている。

ここでは、心理学的にどうか、行動学的にどうか、そのような面から下人がにきびを触る理由を考えたい。それは、通常そこに存在しないものが、急にできたからだ。つまり、違和感である。

歯の治療をしたことがある人は、詰め物をした歯が気になり、気づくと舌先で触っていると、いじるなど言われても、かさぶたや虫刺されを触ってしまったという経験のある人もいるだろう。つまり、下人の行動はこれである。

ネクタイやリボンを下げていたり、スカートを引き上げている人が、面接の日だけ服装をきちんとしても、必ず違和感がある。実際に面接練習をしていて、ネクタイやリボンの結び目を無意識にいじる人は毎年必ずいる。女子はいつも膝に掛かっている裾が膝に触れた時、気にならないだろうか。

練習でやっていないことは試合では出ないのである。普段やっていないことの付け焼刃は聞かないのである。「各々馬は飼いたるや（三橋美智也「武田武士」）常に戦を想定し、馬を訓練しておかないと急場には間に合わない。

以前いた学校で、誠にだらしない、いい加減な生徒がいた。面接練習をしてほしいと言われて、やった時のことだ。（心情的にはやりたくなかった。普段やりたい放題で、こんな時だけこちらを利用するのかという気持ちがあった。しかし、仕事である。）

当人は猫をかぶっているつもりなのだろうが、入室した瞬間から身体中から、だらしないオーラが恐ろしいほど噴き出していった。ぞっとした。自分の身に引き比べて、俺は大丈夫なのかと思っただけだった。生徒の目を見ればある程度の精神状態は推し量れるとは思っていたが、人はこんなにも相手に自分を曝け出して生きているのか、宿業などという言葉さえ思ってしまった。君たちはいいオーラを出しているだろうか？ 私は大丈夫でしょうか？

NO MORE
GIRIGIRI GIRLS



夏期講習や模試の申し込みの状況を見て、感じ

たことがある。GIRIGIRI GIRLS & BOYS が誠に多いということである。

締め切りを過ぎてから、「まだ大丈夫でしょうか？」と聞いてきたり、締切日ではあっても、夜の7時に提出に來たりというケースが見受けられた。常識的な行動を期待したい。

大学に行けば、締め切りは絶対である。大学の2年生の時に、サークルの先輩が「怖いもの見ちゃった」と言って部屋に入ってきた。話はどうである。卒論の提出は正午が締め切りである。12時少し前になると提出の手続きを待っている学生を教務部の部屋に入れ、時報とともに部屋の扉を施錠する。12時を数分すぎた時に、教務部のドアをたたき、泣き崩れている女子学生がいたというのである。

就職試験の日に高熱を発したり、交通事故のあつていけなくなれば、「ご縁がなかったですね。」の一言で終わりである。

常に余裕をもって行動することだ。これは、高々5分や10分電車が遅れただけで遅刻するということでも同じだ。

眠くても我慢して早く家を出て、ゆつたりと行動することが「粹」なことなのである。

「あきらめないことだ。一度あきらめると習慣になる。」（斎藤茂太 精神科医 斎藤茂吉の長男）

今回は言いたいことが多かったのですが、本の小箱のコーナーはお休みします。